

## 年頭所感

中澤 靖夫

公益社団法人日本診療放射線技師会 会長



2019年の新春を迎え、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

平素は本会の事業の推進につきまして、ご理解とご協力を頂き深く感謝を申し上げます。本年も昨年同様にご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

初春を迎え、会員の皆さま方におかれましては、どのような夢と希望と目標を抱かれたことでしょうか。昨年は、第34回日本診療放射線技師学術大会、8地域における放射線医療技術学術大会、第12回JART・JSRT合同学術・市民公開セミナー、第79回定時総会などに出席し、本会の事業方針を伝え、ご理解とご支援を頂いてきたところです。

世界の潮流を見てみると、カナダ・シャルルボアで開催されたG7では、外交・安全保障政策として北朝鮮、テロ・暴力過激主義、中東情勢、海洋安全保障などの問題が議論されました。特にわが国としては、北朝鮮の核開発は断じて許すことのできない喫緊の課題であり、日本国を守るためには、積極的な平和外交と、40年以上北朝鮮に拉致されている被害者の奪還に向けた国民的取り組みが必要であります。

科学技術の進歩は、人類に計り知れない貢献をしています。

2018年のノーベル生理学・医学賞は、京都大学の本庶佑博士と米国テキサス大学ジェームズ・アリソン博士が共同受賞されました。本庶博士は、T細胞表面にあるタンパク質を発見して免疫にブレーキをかける役割を解明し、新しいがん免疫療法を開拓されました。博士は、抗PD-1抗体による免疫治療について「がん治療法的第一選択になるだろう」と述べておられます。新しく開発された抗悪性腫瘍剤オプジーボは、悪性黒色腫や非小細胞肺がんなどに使用され、多くの治療効果を上げていると報告されています。

2018年3月にロシアの大統領選挙が行われ、ウラジーミル・プーチン氏が当選しました。対立候補がない中での圧勝で2024年まで大統領職を務める予定です。ドイツ地方選挙で大敗を喫したキリスト教民主同盟を率いるアンゲラ・メルケル首相は、2021年の任期満了をもって首相の職を退くと述べています。世界各国の大統領や首相が交代したとしても、世界平和のために尽力してほしいと願っています。国連に参加する全ての国の指導者は、地球が抱えているさまざまな問題に対して「地球は一つ」「人類は一つ」という視点から、人種差別をなくし、平和五原則である領土・主権の相互尊重、相互不可侵、相互内政不干渉、平等互惠、平和共存の下、各国がそれぞれの役割を担う中で世界平和の醸成に努めていただきたいと思えます。

第20回ISRRT世界大会が2018年4月に中南米トリニダード・トバゴで開催され、世界から55カ国442人の参加がありました。本会からは「医療被ばく低減施設の普及」について報告しました。2019年3月にオーストラリアでAACRTが開催されます。本会は次期開催国として、東京大会をアピールする予定であります。

2015年3月に診療放射線技師法の一部が改正され、養成教育の単位数が93単位から95単位へ変更されました。新たな業務拡大に伴い全ての診療放射線技師の方々に、厚生労働省が推薦する本会主催の統一講習会を受講するよう勧めています。2020年の新卒からは、新しい教育を受けた診療放射線技師が医療界に仲間入りします。さらに現在「診療放射線技師学校養成所カリキュラム等改善検討会」の審議が厚生労働省で進められており、現行の95単位から102単位に移行する予定であります。この改正法令が定められると、新しい教育を受けた診療放射線技師と統一講習会履修者が優先対象となり、新たに追加される7単位についての統一講習会受講が必要となります。既卒の方々には、古い診療放射線技師として取り残されないよう早めの受講をお勧めします。

本会は、真のチーム医療を推進するために、患者安全を第一優先とし、医療安全の視点からさまざまな生涯教育に取り組んでいます。そして「国民と共にチーム医療を推進しよう」をスローガンに、医療者と協働し、質の高い医療技術を提供する診療放射線技師を継続的に支援し、社会的責任を遂行する所存であります。

皆さま方のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。